

# 論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会  
第 43 号  
2014 (平成26) 年9月20日 (土)

## 楽しいろんごじゆく

千歳市立高台小学校2年 街道 太陽

なぜぼくがはじめたのか。それは子どもべんろん大会と、お姉ちゃんたちが先にろんごじゆくでならって  
いたからです。

さいしょは見ていただけでしたが、大きくなってぼくもむずかしいことをやりたくなりました。それがき  
っかけです。

ざぜんをはじめた時は足がみじかくて、どうしても下に足がつきませんでした。ですから、ざふではなく、  
ざぶとんでやっていました。さいしょはよくしせいをなおされました。でも、ただ一つだけほめられること  
がありました。それは大きなへんじです。おぼうさんはいつもへんじをほめてくれます。ぼくはありがたい  
と思っています。

いつも新田先生はおべんきょうの時、とぎれとぎれによんでくれます。おかげであたまがギューギューづ  
めにならないですみます。字もきれいなのでよみやすいし、書きやすいです。それで少しずつあたまに入り  
ます。

これからは、じしんのあるところだけ大きく言わず、じしんのないところも大きく言う。もっとしんけん  
にざぜんをして、しせいをなおされないようにする。声の大きさも、しんけんさもまけたくない。

ぼくは、思いやりをもった君子になりたいです。これからもがんばります。

※ 来月(10月)は、藤 郷 かほ さんをお願いします。

## おし 教え子 と の かい 会 話 の なか 中で

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

先日、十五年振りに教え子と一献傾ける機会がありました。某会社の営業部長をしている50代半ばの彼  
は、顔艶もよく、髪もフサフサして、とても若々しく感じられました。

その彼が会話の中で ?(ハテナ)と思われる言葉を幾つか使ったので私は面食らってしまいました。

いくら教え子とはいえ、今やそれなりの立場にある人物に失礼とは思ったのですが、この男のこれからの  
人生を考え、あえて間違いを正すことにしたのです。

その幾つかをあげてみたいと思います。

「先生、自分、今度東京へ行くことになりました。急に転勤なんて、思いもつかないことで気が動転して  
しまいました。今の職場で身を粉にして働いているというのにですよ。」

そして、帰り際レジの方に「お愛想お願いします。」

二次会で乾杯した後、「お前のために、あえて話すので気を悪くしないで聴いてくれよ」と前置きして話  
し始めたのでした。

「思いもつかない」 (誤) → 「思いもよらない」 (正)

「身を粉にして」 (誤) → 「身を粉にして」 (正)

「お愛想お願いします」 (誤) → 「お勘定(お会計)お願いします」 (正)

本人は頭をかきながら「先生、ありがとうございます。新田先生だから言ってくれたのです。先生、本当に  
ありがとうございます。」と何度も頭を下げていました。その後の酒は、大いに盛り上がりました。

別れ際、「人は誰でも間違いはあるものだよ。先生だってたまにはあるんだから。『過ちて改めざる、之を  
過ちと謂う』と孔子も述べているよ」と、彼の耳元でささやいて、私はタクシーに乗りました。